

反映されるようになります。なお、Quantitative Reasoning の分野は、Problem Solving のみとなります。

- (2) Verbal の分野における Sentence Correction の廃止：文法等が中心の Sentence Correction が廃止され、Verbal の分野は Reading Comprehension と Critical Reasoning のみとなります。相対的に読解力等の比重が高まります。
- (3) Analytical Writing Assessment の分野の廃止：従来含まれていた、30 分の記述式問題がなくなり、選択式のみとなりました。

問題の取り組み方（概要）

1. 時間配分に気をつける

GMAT は、どのセクションも解答時間に余裕がないので、時間配分が重要です。1 間あたり平均 2 分程度と余裕がないため、1 つの問題にこだわりすぎずに解く必要があります。問題形式に得意・不得意がある場合、得意な形式の問題に時間をかけて、不得意な形式の問題は消去法などで正解の可能性を高めた上で、時間をかけずに選択肢を選ぶのも 1 つの手です。

2. 選択肢を活用する

本文と同様に選択肢も活用しましょう。例えば、問題文からある程度解答内容を推測してから選択肢を選ぶと効率的に解ける場合が多いです。あまりに本文から外れてしまうような選択肢や、問われている内容と逆の選択肢などは、不正解の可能性が高いと言えます。

一方、問題文（あるいは本文）の読解が難しい場合には、選択肢がヒントになって内容が理解できることもあるので、選択肢を上手く活用することが重要です。

問題の取り組み方（分野別）

1. Verbal Reasoning (1) (Critical Reasoning)

Critical Reasoning の問題は、大別すると、(i)本文を分析・評価する問題、(ii)論理や解決策を構築・提案する問題があります。更に様々な頻出のタイプがあり、後ほど解説していきます。

Critical Reasoning は、まず問題文が問うている方向性を掴むことが重要です。問題によって「本文の主張に賛成するもの」「本文の主張に反対するもの」「本文

を客観的に分析するようなもの」など、どんな選択肢を選ぶべきかが異なります。この点を把握しないと、本文の主張を理解しても、間違った選択肢を選んでしまいかねません。逆に論理構造さえつかめれば、細かい点は解答には必要ない場合もあります。

また、「選択肢の中で、最も良いものはどれか」という考え方方が特に要求されるのも特徴です。選択肢の中で、最も直接的で確実に言える選択肢が正解となります。理論的には正しいが間接的な論理である、可能性が低い、必要とまでは言えない、言えなくもないが他により良い選択肢がある、極端な主張である、本筋からはやや外れているなどの選択肢は、本文の内容とは関連していても不正解となります。

2. Verbal Reasoning (2) (Reading Comprehension)

Reading Comprehension は、大別すると、(i)本文に書かれていることを理解する問題、(ii)本文に直接書かれていなことを推論する問題に分かれます。Reading Comprehension の問題の特徴は、スピードが要求されることです。GMAT は全体的にスピードが要求されますが、Reading Comprehension は特に本文、選択肢とも長い場合が多いので、あまり細かい部分にこだわらずに、本文の大意、問題に解答するのに必要な情報のみを読み取ることが大事です。

本文に出てくるトピックは様々ですが、本文からは、主題・大まかな主張・本文の構造（一般論と具体例なのか、通説に対する反対説なのか、自説の証明なのかなど）を把握できればよいでしょう。

また、問題文で問われている内容の理解も重要です。具体的には、「本文によれば」とあれば、本文の該当箇所を探す必要がありますし、「本文から推論できることは」とあれば、本文中には明示されていないので、本文を理解した上で適切な選択肢を選ぶことになります。

3. Quantitative Reasoning

この分野の特徴は、数学の英語表現に慣れておく必要があるという点です。基礎的な数学の問題がそのまま問われる所以、比較的取り組みやすい一方、特に文章問題などは、問題を読み解くのに時間がかかることがあります。

4. Data Insights (1) (Data Sufficiency)

Data Sufficiency の問題の特徴は、数学を用いつつ「間に答えるのに十分な情報があるか否か」を判断するという、独特の問題形式である点です。したがって、数学自体は基礎的であるものの、問題形式に慣れておく必要があります。

詳細は後ほど解説しますが、2つの数式（あるいは事項）が与えられ、間に答えるのに十分な条件か、または不十分かを答えます。

5. Data Insights (2) (Multi-Source Reasoning)

複数 (Multi-Source) のデータ資料 (2つまたは3つ程度) が表示され、それに基づき解答します。

6. Data Insights (3) (Table Analysis)

コンピューター上で各列のデータを並べ替えることができる表が提示されます。問題文に基づき、要求されるデータがどのようなものかを判断し、必要に応じてデータを並び変えて、解答します。

7. Data Insights (4) (Graphics Interpretation)

Graphics Interpretation : グラフを解釈することになります。様々なグラフがあるので、変数は何か、単位は何か、関連性は何かなどを理解する必要があります。

8. Data Insights (5) (Two-Part Analysis)

Two-Part Analysis : 問題文の条件に基づき、2つの事項に関しそれぞれのデータを解答する必要があります。